

平成29年第1回定例会 総括質問

市政を問う

今定例会では3月7日、8日に総括質問が行われ、10人の議員が質問に立ちました。その主な内容を、紙面の都合上、1人2項目以内に要約して掲載しました。掲載事項は、発言議員本人からの寄稿によるものです。

詳細な内容は、会議録を製本の後、三原市議会事務局、市役所情報公開コーナー、三原市中央図書館に置いています。また、三原市ホームページでも閲覧できますのでご覧ください。(会議録の製本には、議会終了後おおむね3カ月を要します。)

HPアドレス <http://www.city.mihara.hiroshima.jp> → 市議会 → 会議録検索
映像ライブラリー

市民合意なき 駅前図書館移転の中止を



寺田 元子 議員
てらだ もとこ

問 私が実施した市民アンケートの回答210人中、駅前箱物づくり反対が約8割を占めた。駅前図書館やテナント施設は市民の同意を得ていないのではないかと。また、大型事業で膨らんでいく地方債残高で悪化する市財政の影響が市民生活に及ぶのではないかと。

答 魅力的な図書館ができれば、駅前の交流や賑わいの拠点になると考える。今後も繰り上げ償還を行い、地方債残高の縮減と基金残高を確保したい。

市民を交通事故から 守る対策強化を

問 横断歩道や停止線が市内全域で消えているが、県や警察に対して予算増額を求めるべきではないか。市内では14年間に109件の交通死亡事故がおきているが、その後の安全対策はどうか。また、尾道三原線は横断中6件の歩行者が犠牲になっている。信号機設

置や連続照明等設置など対策に乗り出すべきではないか。

答 県や公安委員会に対して予算確保など抜本的改善を強く要望したい。

尾道三原線については、関係部署と連携を密にして道路照明灯の設置に取り組んでいきたい。

問 市民の命を預かる市長として県との連携を強めていくべきではないか。

答 交通事故のない、住みやすい三原を築くため、道路関係をこれから入念にチェックしていきたい。



死亡事故が起きた主要地方道尾道三原線（中之町）

その他の質問事項

- 中学卒業までの医療費完全無料化を
- 公園トイレの洋式化を

平成29年度予算編成について



仁にノの岡おか範のりゆき之き議員

問 厳しい財政事情の中、公共施設の維持管理、修繕などの市民要望に対応できるか。

答 平成29年度の予算編成に当たって、歳入は市税や地方交付税等の一般財源が年々減少している。歳出面では、まちづくり推進のために、新規事業や拡充事業及び総合戦略事業実施のための一



トップライトが改修される三原リージョンプラザ

般財源を確保しなければならぬ。そのために、所属部署の裁量により、予算要求を枠配分方式により昨年度より5%削減した予算要求になっている。普通建設事業や枠配分に納まらない大規模修繕事業は、枠外での予算要求を認めており、歳入歳出の状況を見ながら、優先順位を定め、別枠で予算配分している。

平成29年度の施設整備等は、前年度を上回る予算を計上している。また、市民要望による公共施設の修繕や道路修繕等については、優先順位を定めて、順次実施していく。

年度途中での要望については、その緊急度等に応じて、予算の範囲内で実施していく。予算の追加等が必要なものは、財源の調整を図りながら、補正予算に計上していく。

市政運営について

問 雇用と企業誘致については、市内の海岸線に立地している各企業へ、新規事業の導入や遊休地への新たな企業誘致を働き掛けてはどうか。

き掛けてはどうか。

答 遊休地、遊休工場への新たな企業誘致の働きかけについては、既存企業や新規企業への訪問を積極的に行っている。また、市内外の様々な企業から、新規立地の問い合わせなどがあることから、海岸線に立地する各企業とは連携を図り、情報交換を行っている。

スポーツ振興の推進

については、スポーツ振興基本計画を策定し、スポーツを通じて本市の活性化と賑わいを創出してはどうか。

答 現在、今後10年間のスポーツ振興計画を進めている。

特に、大規模スポーツ大会等の開催や地域を超えた交流、市外からの利用促進、さらに、競技団体や学生等の合宿での活用にも取り組む。

商工業の充実の取り組みについて



高木 武子 議員

問 ベンチャー企業の活性化、起業化促進の現状と具体的な取り組みについて問う。

地域経済の新たな活

力を生み出すためには、産業の集積及び地域産業が育ちやすい環境整備と、総合的な起業の育成と、総合的な強化が必要と考えており、総合戦略においても重点的に取り組む事業と位置付けている。

創業支援事業計画が国の認定を受け平成27年度から産官学金による協議会を設立している。

成果として相談支援機関を利用した、延べ創業者数は98人、延べ支援者数は175人となっている。

継続した支援を強化し
新たな活力の創出につな
げたい。

問 仮称本郷地区産業団地に関する問い合わせ状

コミュニティ交通
の体系整備の取
組みについて

問 今後の生活密着型交通体系のあり方について問う。

問う。

答 市民生活の利便性と福祉の向上に資することを目的とした、地域公共交通網形成計画を策定し、新たな交通サービス、新たな路線再編等を通じて、地域公共交通の活性化と維持確保を図っている。地域の現状や課題を熟知している地域住民が主体に、検討し、自分たちの移動手段を守り、支えていくことが不可欠であり、地域住民、市、交通事業者の三者が協働で取り組むものである。



デマンド交通



加村 博志 議員

東本通区画整理事業の促進について

問 事業の進捗状況と事業推進の課題は何か。

答 28年度末の事業進捗状況は、61億9600万円の執行予定で、進捗率は67・5%、都市公園7

問 喫緊の課題として取り組む地方創生事業の人口減少対策の有効手段として、平成35年度までの事業計画期間を短縮する考えはないか。

答 早期の事業効果が出るよう幹線道路等の整備を中心に事業を進めた結果、大型店の出店、認定

こども園等の立地が進み、事業区域内人口も増加している。今後事業の重要な財源である国の交付金の確保、保留地の販売を推進し、早期の事業完了に努める。

問 現在の改良状況、今後の予定と本郷地区産業団地内を通り県道下徳良本郷線までの道路整備の状況について問う。

答 西野地区では、延長1・16km区間の用地買収を進め、道路改良工事に着手した。小坂地区では、道路改良工事を行っている。高坂地区では、延長約0・8kmの測量設計を行っている。本郷地区産業団地内から県道下徳良本郷線までの道路改良は、団地造成工事と合せて、今年度より工事に着手する。

アクセス道路の取り組みについて

問 木原道路は、三原バイパス糸崎ランプから尾道バイパスを繋ぐ3・8kmの道路で、う回路がなく、度々の交通渋滞、異常気象時の交通規制など長年の課題である。全体

の工事の進捗状況と今後の予定について問う。

答 昨年度までに、内畠高架橋と下木原高架橋は完成し、糸崎地区では赤石トンネルの工事に着手している。事業の促進を積極的に国や県に働きかける。

周産期医療体制整備について



正田 洋一 議員

問 周産期医療体制整備について、私が平成26年2月定例会で問題提起を行ったが、現在までの状況について問う。

答 三原赤十字病院の分娩中止に伴い、岡山大学医局に市長、病院長が医師派遣の要望を行った。

問 医師確保に向けた市独自の支援を検討してみるのはどうか。

答 市として取り組める特効薬が見いだせていないが、引き続き市内の産科医、医師会など意見交換し、最大限の努力を行う。

ブランドデザインについて

問 私は以前から本市のブランドデザインの必要性を求めてきたが、どのようなものを作って、どのように使うか。また、誰が作るのか問う。

答 どのようなものかについては、本市の50年先を想像し、中心部が将来どのようなまちをめざすのかその方向性として、景観の考え方、発展のイメージ、エリア毎のめざすコンセプトなどを定め、ハード・ソフト両面

から青写真を描く。どのようなように使うかについては、公共事業や建物、道路などを整備する際には、これを参考にする。誰がかについては、現在素案を作成中で、今後、市民、経済界、専門家の意見を聞きながら策定する。

問 50年先を想像するなら40年、30年、20年、10年先までに何をやらなくてはならないか策定するともっとよいものができるのではないか。

答 明確なスケジュールをすぐに策定することは困難であるが、今後検討していく。

